

平成29年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 学年研を中心に授業研究を熱心に行っている。どの先生も、子どもの実態に即した指導を目指し基礎的な知識・技能の習得については積極的に取り組んでいる。
- (2) 「指導と評価の一体化」を心がけ、子どもの声を生かし、〈意欲〉と〈自信〉を育む「たのしい授業」を目指してきている。
- (3) 活用・探究については取組がまだ不十分。また、言語活動の充実、読解力向上を中核にすえた指導を考えていく必要がある。
- (4) 家庭学習の習慣が身に付いている子、読書好きな子など、学ぶ楽しさを感じたりしてよりよい自分づくりができるように。

2 今後1年間の方向（中期学校経営方針）

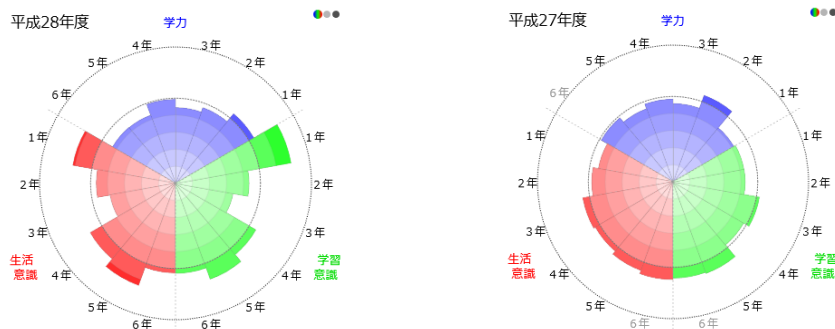
学力向上に関する指導の目標・方針（平成28年度末の姿）

- ・一人一人の先生が基礎・基本を大事にし、学びがいのある〈たのしい授業〉を実施しています。
- ・思いや願い、声を反映した、〈意欲〉〈自信〉を育てる授業を創造しています。
- ・指導と評価の一体化を心掛けています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力については、やや横浜市の平均より低いと言える。学年によって差が見られる。生活意識調査、学習意識ともに平均を超える学年が多い。「自分にはよいところがあると思いますか。」が市の平均を上回っていて、自信をもって学習に取り組める子が増えてきたと考えられる。しかし、学力と同じように学年によって差が大きい。今後、教師の授業力の向上を図ることによって、子どもたちの意欲や自信を学力につなげるとともに、授業内での話し合いやかかわり合いを通して学習する楽しさを味わうようにしていきたい。



- 国語科：おおむね横浜市の平均と変わらないが、「話す・聞く」については、横浜市の平均を下回っている学年が多い。話し合う活動を増やし、話を集中して聞き、伝え合う授業を行ってほしい。
- 算数科：横浜市の平均よりやや低い。また、学年によって、学力面、意識面の違いがある。基礎基本の定着をし、自ら進んで問題を解決する授業を行ってほしい。
- 社会科：学力面で横浜市の平均よりやや低い。授業の中で積極的に資料を活用し、問題解決を進めていくようにしたい。
- 理科：学習への意識面が高いが、学力面で横浜市の平均をやや下回っている。特に知識・理解面で平均を下回っている学年が多い。観察実験を大切にするとともにしっかり教える授業を行いたい。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力や学習意識、生活意識で、子どもたちの学力や学習に対する意欲が向上してきた学年もあれば、低くなった学年もある。どの学年の子どもも意欲を高められるように授業を工夫して、自ら考える力や活用する力を伸ばしていけるようにしたい。

また、「分かる」、「できる」ことを実感することで自信をもって学習に取り組める手だても講じていきたい。

4 平成29年度 目標と具体的方策

平成29年度 目標

基礎・基本を大事にし、意欲と自信を育てる学びがいのある授業の実現

(1) 学校組織としての共通の取組

- **基礎・基本を大事にし、学びがいのある授業を目指しています。**
 - ・基礎・基本を大事にし、その活用を図るために積極的に言語活動を取り込んでいます。
 - ・日々の授業の中で、思いや考えを言ったり書いたり説明したりする場を意図的に設けています
- **子どもの意欲や自信を育てる授業を創造しています。**
 - ・読解力の向上を図り、積極的にその教科の特性に応じた表現力の育成を目指しています。
- **指導と評価の一体化を心掛けています。**
 - ・子どもの実態を的確に評価し、それを生かした指導を考えています。

(2) 学年・教科等としての取組

基礎・基本 意欲と自信 〈言語活動・読解力・表現力〉の充実

1 学年

- 自分の思いや考えを理由をつけて言えるようにしていく。
- 友達の思いや考えを、最後までしっかりと聞けるようにしていく。書く活動を多く取り入れ、2文で表現できるようにしていく。

2 学年

- 書く活動を多くして「 」や敬体を使いこなせるようにしながら、語と語や文と文の続き方に注意してつながりのある文章を書けるようにしていく。
- 自分の考えをまとめたり説明したりする活動を多く取り入れ、筋道立てて考えられるようにしていく。

3 学年

- 文章の読み取りをしっかりと行い、話のまとめや段落を意識して内容をまとめる力を養う。
- 日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりできる機会を多くする。

4 学年

- 読み取るときは場面の移り変わりとともに変化する気持ちについて会話などから関連的にとらえることができるようにする。
- 文章問題では場面と図、式を関連付けて考え答えを導くことができるようにする。

5 学年

- 漢字の読み書きなど基礎基本の定着を図る。話し合い活動を通して友達の考えを受け止める力、及び自分の考えを伝える力を養う。
- 算数の基本的な用語などを丁寧に抑えとともに、練習問題や宿題などを通して、確実な計算力を養う。

6 学年

- お互いの考えの共通点や相違点を大切にしながら話し合うことができるようにする。
- 図や数直線を用いて、筋道立てて考える習慣を身につけ、相手意識をもって説明できるようにする。

個別支援学級

- 自分のことを人に言葉で伝えたり、人の話を聞いたりする経験を日常的に積むことで、自信をもって人とコミュニケーションをとることができるようにする。
- 生活の中で多くの人々とかかわる経験をすることで、場に応じた言葉遣いを身に付けるようにする。